

第1章 印旛沼の生い立ち

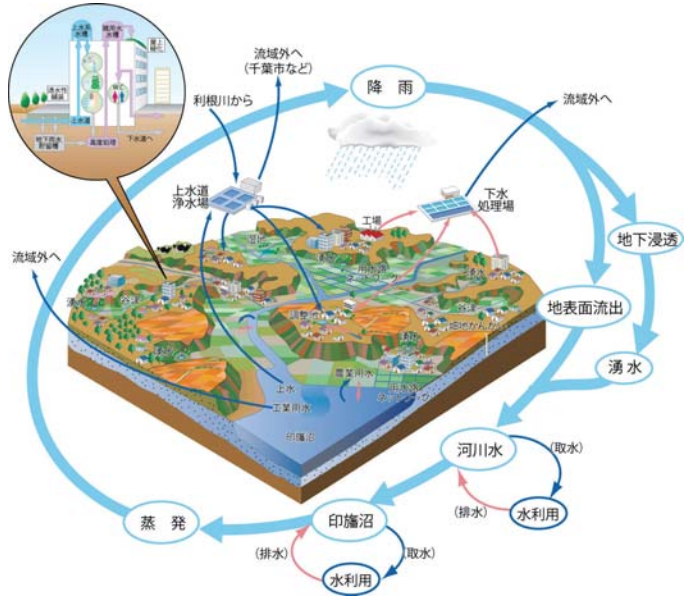
～理科の授業風景～



先生、沼や川の水は、どのようにして生まれるのですか？

(先生)
一番のものは雨なんです。雨水の一部が、地表を流れて川に流れ込む。

また、雨の一部が土にしみこんで、水を通しにくい地層の上にたまり(地下水)、その一部が谷津のがけなどからわき出して、その水が川となって印旛沼に集まります。



先生、沼の水は、どこからきて、どこへいくのですか？

(先生)
印旛沼のまわりには山がない。どこも同じ高さの台地のように見えるよね。でも上流には、印旛沼と東京湾の間と、印旛沼と九十九里平野との間に、分水界があります。

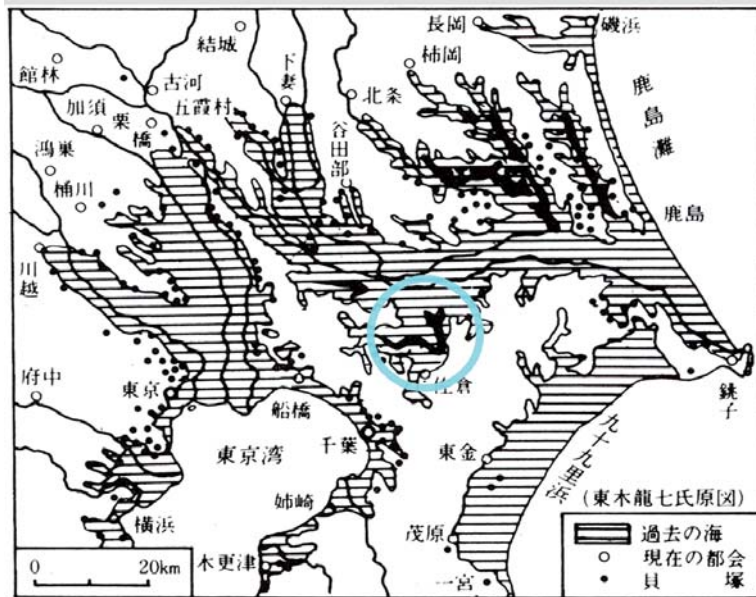
この2つの分水界の内側に降った雨が、谷津の低地を流れて、印旛沼に注ぎ込み、利根川に流れ出して太平洋に出ます。そして、台風などで雨が降ると、水があふれないようにするために、印旛放水路(花見川)を使って東京湾にも流します。



西印旛沼

注 分水界：雨水が2つ以上の流域(水系)へ分かれて流れる境界のこと。

先生、沼は、いつ、どのようにしてできたのですか？



(出展:「流域をたどる歴史, 関東編」(利根川百年史より引用))

(先生)

印旛沼のあたりは、図に見るように、数千年前の縄文時代には霞ヶ浦ともつながった内湾になっていて、印旛沼はその入り江のひとつでした。

その証拠に、内湾（古鬼怒湾）のまわりには、当時の人々（縄文人）が食べた貝の殻などが山（貝塚）となって残っています。貝殻はハイガイ、ハマグリ、アサリなど、海の貝が多く含まれています。

この写真は佐倉市にある間野台貝塚の様子ですが、昔はこの近くまで海辺だったことがわかります。



(写真提供：佐倉市教育委員会)



(先生)

今から約千年ほど前になっても、印旛沼は、まだ香取海と呼ばれる広い水域でしたが、利根川や鬼怒川の上流から運ばれてきた土砂によって、入り江の入口が塞がれ、香取海（古鬼怒湾）から印旛沼として独立しました。